

ユニバーサルデザイン化のための  
環境整備リーフレット

すべての子どもの「わかる・できる」を増やすための環境整備

特別支援教育の視点を取り入れた  
校内・教室内の環境づくり



大阪市では「大阪市教育振興基本計画」において、そのめざすべき目標像として「全ての子どもたちが学力を身に付けながら健やかに成長し、自立した個人として自己を確立し、他者とともに次代の社会を担うようになること」を掲げています。

本リーフレットは、これらの趣旨を踏まえ、特別支援教育の視点から、全市校園のすべての子どもにとって学びやすく、居心地の良い安心感に包まれた校内環境・教室環境・学習環境づくりを進めるために作成しました。主に大阪市立小学校の取組を紹介します。

近年、全国の小学校などを中心に、障がいの有無にかかわらず、すべての子どもの「わかる・できる」をめざした「授業のユニバーサルデザイン」化の教育実践が進められています。「ユニバーサルデザイン」とは、「年齢や性別、国籍、障がいの有無などの条件によって対象を限定することなく、すべての人にとって使いやすく、理解しやすいデザインであること」といった考え方です。このような考え方を学校教育の中心である授業に活かそうという取組が「授業のユニバーサルデザイン」化です。

「ユニバーサルデザイン」化された授業を実践するためには、まず、その基盤として、子どもが安心して過ごせ、授業に集中できる環境づくりが必要になります。

それぞれの学校園で学ぶ子どもにあわせた校園内・教室内の環境づくりを行い、子どもの「わかりたい、できるようになりたい」という願いや意欲を大切にしたい授業づくりを進めるために、ぜひご活用ください。

大阪市教育委員会

平成31年（2019年）3月

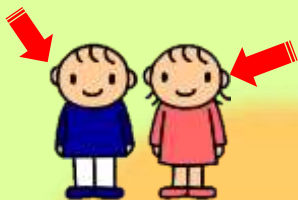
新学習指導要領等では、「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点）等の共通の方向性が示される中、特別支援教育に関しては、個別の教育支援計画等の作成活用による指導方法の工夫改善が一層求められています。

また、障がい者理解教育、心のバリアフリーのための交流及び共同学習も重視され、「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」に基づき、学校における交流及び共同学習を活性化するための具体的方策も、平成 30 年 2 月に「心のバリアフリー学習推進会議」からの報告としてとりまとめられました。

このような状況にあり、近年、これらの教育的ニーズへの対応として、特別支援教育の知見を活かし、すべての子どもが「わかる・できる」をめざす「授業のユニバーサルデザイン」化の必要性は一層高まっています。特別支援教育の視点から行うこの支援は、特別な支援を必要とする子どもにとっては「ないと困る支援」「なくてはならない支援」であり、また、他の子どもにとっても「あると助かる支援」「あると便利な支援」となることから、すべての子どもに「役立つ支援」と考えられます。

「授業のユニバーサルデザイン」化は、学校生活の中心となる授業を、すべての子どもによりわかりやすく、より意欲的に参加できるように改善しようという取組です。誰もが「わかる・できる」授業を行うには、その基盤として、居心地が良く、安心でき、学びやすい環境が必要となります。

本リーフレットは、次の5つの観点から校内環境・教室環境・学習環境づくりを紹介します。



## 情報 (刺激)

- ①視覚的な刺激
- ②聴覚的な刺激



## もの

- ①整理整頓
- ②教材、教具等



## 座席

- ・学びやすさへの配慮



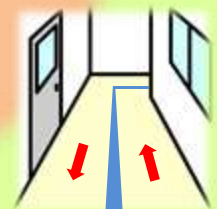
## 予定

- ・見通し
- ・自主性



## ルール

- ・社会性の育成



## 『情報（刺激）』 ①視覚的な刺激のコントロール

掲示物には、子どもに興味や関心をもってほしい情報を「示し続ける」という役割があります。黒板の周辺にさまざまな掲示物を貼ることは、学習への集中を妨げる視覚的な刺激となってしまうこともあります。視覚的な刺激に反応しやすい子どもには、黒板周辺の掲示物の精選とともに掲示位置の工夫などが有効であると考えられ、刺激の低減は、学びやすい学習環境づくりにとって非常に重要な視点です。

すっきりとした黒板周辺！  
掲示物は教室の後面や側面に！



黒板周りに取り外せないものがある、または前面に掲示の必要がある場合

- ・覆いをかけて視界に入りにくくする
- ・必要のないとき取り外せるようにする
- ・シンプルなものに絞る

## 『情報（刺激）』 ②聴覚的な刺激のコントロール

教室内は、先生の説明や指示、子どもの話し声のほか、学習に伴う作業の音や机・イスが動く音など、いろいろな音があります。そのような声や音が多い環境では、他者に聞こえるように自然に声のボリュームを上げてしまいます。「音が音を呼ぶ」と言われる理由です。教室内ではこうした音が比較的コントロールしやすいのに対し、校内を集団で移動する際の足音や運動場で流す音楽などは、教室の外から音が入ってくるため、音のコントロールが困難です。

大切なことは、そのような音への意識を高めてまわりに配慮できるように、学校全体で共通の理解を持って取り組むことです。自分の発する音や声が、周囲に対してどれくらい影響を及ぼしているかを自覚できるように、音のない静かな環境で学習する経験を重ねる必要があります。このような経験は公共の場などでのマナーや礼儀の習得にもつながるものです。

状況に適した声の大きさを学べるように、「視覚的」に示してわかりやすく！



静かになるのを…



うちわを活用

何度も「お話をやめなさい！」と注意をするよりも、これらを提示した方が、子どもにメッセージが伝わりやすい場合があります。

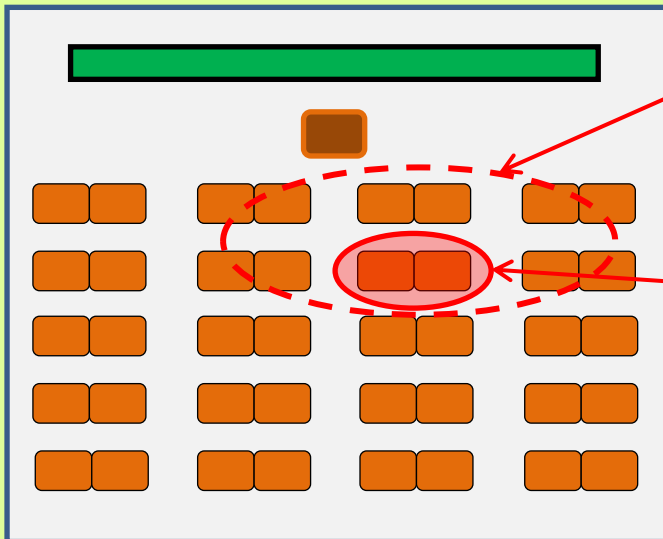
# 『座席』 学びやすさへの配慮

教室には、黒板の文字が見えにくい、先生の話が聞き取りにくい、さまざまな刺激に反応しやすいなど、座席を決めるうえで配慮が必要な子どもがいます。特に、人からの「話しかけ」などの刺激に反応しやすい子どもの場合は、そのような相手が視界に入らないようにしたり、先生の説明や指示が伝わりやすくするなどの工夫・配慮が必要です。

次の図のように、「話しかけ」などの刺激に反応しやすい子どもが、今、「何を」「どのように」するかをわかりやすくするために、周囲に「姿勢が良い、上手な聞き方や話し方ができる」などの行動の基準になる子ども（モデル）を配置することも工夫・配慮の一つです。

また、廊下側や窓側の机を黒板の中央に少しだけ向けることで、子どもは板書の内容が見えやすくなり、先生からは子どものようすが確認しやすくなります。

※ 座席配置の一例



行動の基準になる子ども（モデル）

配慮が必要な子ども

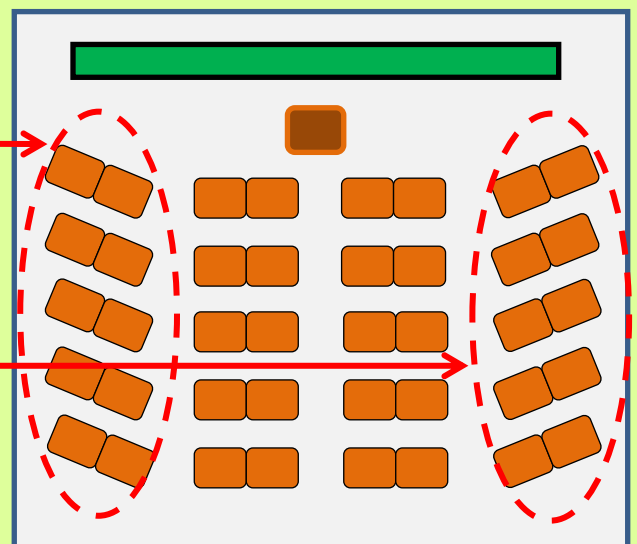
- ・ 人からの刺激に反応しやすい
- ・ 先生の指示を聞き逃しやすい

など

協同学習を進める際のグループ分けでは、学習に対する理解度のほか、子どもの人間関係などにも配慮が必要です。

- ・ 実際に先生が子どもの席に座り、目線を合わせてみることも大切です。板書や資料提示の位置などについて貴重なヒントが得られます。放課後などに一度試してみてください。
- ・ 利き手が異なる子どもが隣り合って座る場合、字を書く時などに肘が当たることもあります。字の書きにくさやトラブルのもとになることもあるので、このような状況に気づく視点も大切にしたいものです。

教室両側の机を  
少し斜めに回す。



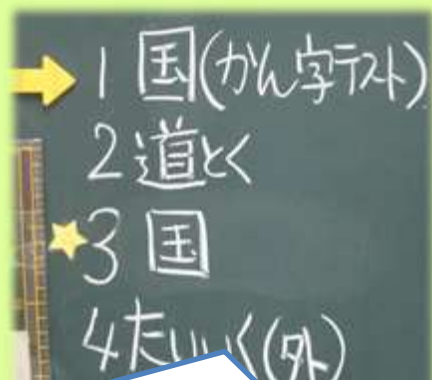
※ 座席配置の一例

# 『予定』 見通し、自主性

言葉だけの指示では取り組むことが苦手な子どもや、初めて経験する活動に対して不安やとまどいを感じる子どもに対しては、「いつ」「どこで」「何を」「どのように」するのかを「見える形」で提示することが有効です。このような配慮は、月中行事や週の予定表とともに、一日のスケジュールや授業の流れなども見える形で提示することで、子どもが分かりやすく安心して自主的に行動できます。また、予定とあわせて、準備物などの情報も加えるとより有効です。

急な予定変更により強い不安やとまどいを感じる子どもには、全体への指示・説明だけでなく、個別的な支援として変更した内容を記したプリントやメモなどを渡すことも効果があります。

その日の時間割と内容・場所が  
示されています。



取り外しできる小黒板などへの表示が望ましい。授業の流れの表示も有効。



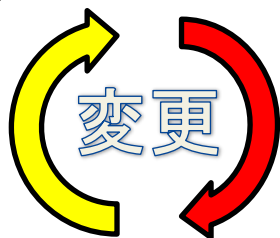
季節感のある装飾と月中行事

伝えたい内容を簡潔に順序立ててまとめ、装飾はシンプルにすっきりと。

「終わったら」カードを黒板に掲示！

**終わったら**

ワークシートやドリルなどの課題は、やり終える時間が子どもによって違います。早く終わった子どもが時間を有効に使えるように、あらかじめ「終わったら何をするのか」を伝えておくことが大切です。



3時間目  
音楽 ⇒ 体育  
体育館  
(体育館シュー

予定の変更を伝える掲示です。繰り返し使用できるように、ラミネート加工すると便利です。

- この部分に水性ペンで書きこむ！



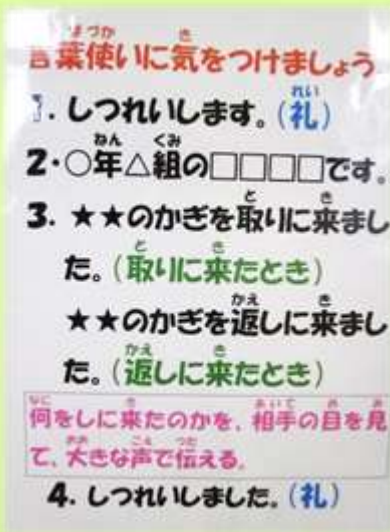
このようなデジタルタイマーを全教室に設置している学校もあります。活動の残り時間の提示や速さを競う活動などに使用すると、子どもの意欲が高まります。

# 『ルール』 社会性の育成

学校には、集団生活を安全・安心に過ごすためのルールがあります。ルールが明確に示され、しっかりと守られている学級では、子どもが安心して過ごすことができるとともに、授業をはじめ集団活動をスムーズに進めることができます。

子どもが学校生活のさまざまな場面に応じたルールをしっかりと身につけるためには、「どのような場面で」「どのようにすれば良いのか」といったことを具体的に知らせる必要があります。そのためには、ルールを明確に示すとともに、望ましい行動をした際には必ずその場でほめることが重要です。

聞き方・話し方のルール

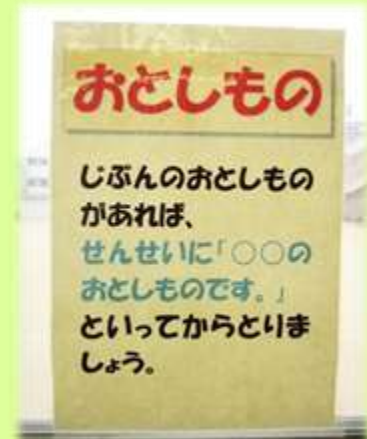
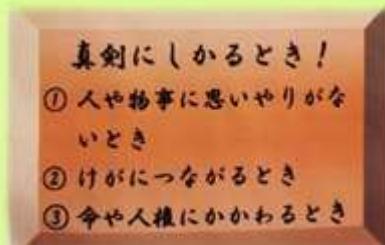


職員室に出入りする時の挨拶の仕方などを明示した掲示物

子どもたちがルールの内容について話し合ったうえで決めると、ルールをより意識するようになり、守れることが多くなります。



「〇〇してはいけない」という禁止や否定のルール表現に代わり、「何をするのか」そのために「どうすることがよいのか」を具体的に示すと、守れることが多くなります。



## 『もの』 ①整理整頓（物の位置を決める）

学級経営の基本の一つとしての「整理整頓」は、プリント類や文具などを探す時間を減らし、学習を効率的に進める効果があります。校内・教室内の物を置く場所を決めることが整理整頓の第一歩です。そのためには、「何を」「どこに」「どのように」置けばよいのかを誰が見てもすぐにわかるように、視覚的に伝える工夫・配慮をすることが必要です。



靴のかかとをそろえるための工夫

掃除用具入れに掲示された「片づけかたの見本」写真



ケースごとに出席番号を明示して整理！



## 『もの』 ②教材、教具等

小学校低学年では、読み書きの習得を進めるために、ひらがな・カタカナ表が一人に一枚用意されている環境



デジタル教科書、タブレット端末、実物投影機やプロジェクターなどのICT 機器が使える環境



大阪市の学校園では、子どもの学びや育ちを支える環境づくりの取組がたくさん行われていますが、このリーフレットでは、大阪市立小学校で取り組まれている実践の一部を紹介しました。

このような実践を進めるうえで大切なことは、まず、先生が子どもの困っている状況に「気づく」ことです。子どもの授業の様子や友だちとのかかわり方などから、その理由を考えることが「気づく」ことにつながっていきます。

最初は、紹介した取組をそのまま実践していただくのも良いでしょう。実践を進める中で、先生が子どもの状況に的確に「気づく」ことによって、どの子にとっても「学びやすい・過ごしやすい」環境整備のあり方が見つかることでしょう。

このように特別支援教育の視点を「事前的」かつ「積極的」に取り入れた取組を進めることにより、教育的課題に対して「予防的」に対応することができると考えられます。

「ユニバーサルデザイン」化の取組は、学級の子ども全員を対象にした一次的な支援です。効果を感じにくい、状況が改善されにくい場合があります。そのような場合は、二次的な支援として、個別の対応が必要になります。

#### 《参考図書・資料》

「小学校 ユニバーサルデザインの授業づくり・学級づくり」花熊 暁 編著 高槻市立五領小学校 著 東京書籍  
「通常学級での特別支援教育のスタンダード」

東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会 with 小貫 悟 編 東京書籍

「特別支援教育研究 第652号/12月号」全日本特別支援教育研究連盟 編集 東洋館出版社  
「通常学級の授業ユニバーサルデザイン」

全日本特別支援教育研究連盟 編 佐藤慎二・漆澤恭子 責任編集 日本文化科学社

「通常学級の特別支援 今日からできる! 40の提案」佐藤慎二 著 日本文化科学社

「特別支援教育 どの子も『安心』できる 学級づくり 授業づくり」田中博司 著 学事出版

「視覚シンボルで楽々コミュニケーション」ドロップレット・プロジェクト編 エンパワメント研究所

このリーフレットに関するご質問・お問い合わせは・・・  
大阪市教育委員会 事務局 指導部  
インクルーシブ教育推進室 までどうぞ!

TEL 06-6327-1009

〒553-0023 大阪市東淀川区東淡路1丁目4番21号

『校内及び教室内環境のユニバーサルデザイン化のためのリーフレット』

※大阪市教育センター作成版（平成25年度「特別支援教育体制整備の推進」事業）より一部改訂したものです。